

2018
Vol.3編集・発行 / むぎのめ広報委員会
〒892-0877 鹿児島市吉野二丁目 38-16
TEL099-248-7314

にじのたま

ひとりのねがいをみんなのねがいに ひとりがみんなのために みんながひとりのために



2年間、妻の芽のなかまの訪問相談を行っていた斎藤医師(写真左)
今年1月4日に亡くなられた西前マリ子さん(写真中央)の看取り実践
チームにも加わり尽力された

障害をもった人たちを理解してくれる
お医者さんと病院がほしかった

いよいよ、みんなの願いの第1歩！

2017年度の家理協議(妻の芽福祉会の家族会と理事さんが協議する会議)で、家族会からこんな要望が上がりました。「365日、昼夜を問わず医療体制が充実できるように要望いたします。(中略)加えて、女性のなかまたちが乳がん健診を安心して受けられるよう障害のある人への理解ある病院(婦人科)との連携、乳がんについての学習会、複数(集団)で受診できるような仕組みなどをつくってもらいたい」と。家族からもなかまからも、「妻の芽に病院がほしい」という願いの声は、以前から上がっていました。

そして2018年12月、福祉生協むぎのめの事業として、むぎのめの診療所の開業が現実のものとなります。診療所名は「ひとむぎ診療所」。人と妻(自然)とひと粒の妻(自然)という意味です。院長先生は斎藤裕(さいとう) ゆたか(ゆたか)医師。移動店舗「ハートとハートをつなぐ」に乗り移動健康相談を行う、ひとむぎ先生です。永年の願いを乗せて、むぎのめの診療所がオープンします。

「リハビリもリラックスして受けられる」

●これまで病院で子どもが大きな声を出すと周りに気をつかっていたけど、むぎのめの診療所なら安心です。どんなことでも相談がしやすいだろうし、リハビリもリラックスして受けられるだろう。待ち望んでいた診療所に期待しています。

(学童・青年期の家族)

●親も子も高齢化して病院にお世話になる事がますます多くなりました。特に気になるのは、日、祝日や夜間の発熱や発作。いつでも診てくれる気軽に対応してくれるお医者さんや看護師さんが欲しいと思っていました。(老年期の家族)

●内科、整形外科、皮膚科、歯科…と、毎月毎月異なる病院を受診。当たり前といえば当たり前かもしれないけれど…健康状態をトータルで診てくれて専門以外のところは、適切な病院を紹介してもらえると安心して受診できると思う。(青年期の家族)

小さなぎょうどうの力

地域の一員となるフェスタ

先月、福祉生協の誕生を祝うフェスタが開催されました。フェスタといえば、楽しみは、ステージに買い物でしょうか？

特に障がいのあるなかまたちにとって懐かしいスタッフさんとの再会は何よりの楽しみです。

一緒に仕事をしたことや外出で楽しかったこと、その時に話した内容までもふつふつと思ひ出され、ほこほことしたひと時となります。

又、ボランティアさんとの新たな出会いでは、ちよつと緊張しながらもわくわくして一緒に会場をまわったり昼食を食べたり…。感謝とまたの再会を願わずにはいられません。

テントの中に陳列されたなかまたちの陶芸や手芸品をお客さんが手にとって見て買っていくその光景に、なかまたちの胸の中には、売れた！僕の作ったお皿が売れた！という嬉しさがあふれ笑顔となつて

ありがとございました。こんな経験から、又、つくる、頑張ろうと明日への意欲につながっていくことでしょう。

更には、なかまたちが、ステージで見せるいきいきとした表情には普段の姿からは想像できない不思議なステージの力を感じます。

さまでまなかまの姿に出会う時、私たちは、僕もわたしも地域の一員だよというなかまたちの願いに触れることができます。

市民県民の組合員さんが誰でも気軽に参加しやすい雰囲気の中で、人と出会うこと、自分をせいじい表現すること、そして、人とつながること、これこそが福祉生協のフェスタの願いのなかまの感じることでした。

まだまだ、始まったばかり。これからも沢山の「要望をお聞かせください。」

(中野 喜代子)